

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597800022		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム 徳佐あいおい苑		
所在地	山口県山口市阿東徳佐中987-5		
自己評価作成日	平成29年10月27日	評価結果市町受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年11月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな徳佐。地元のお米、野菜を使い料理しています。食事はとても美味しく評判良いです。また周りを見渡せば山、山、山、空気は美味しく、鳥などの声が響き、時間がゆっくり過ぎていきます。また、畑には季節にあった野菜を育てています。利用者と一緒に収穫しおやつを作ったりしています。また、地域には農場やりんご園などがあり苑外活動にも積極的に取り組んでいます。「1日1笑」、利用者が1日最低1回笑って頂く事をモットーに利用者支援を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調理担当の職員を確保され、各ユニットに配置しておられ、事業所の畑で収穫した野菜や地元産の野菜や米、近所の人や利用者家族からの差し入れの野菜、利用者が採取した山菜((ワラビ、つくし、ふき)など、旬の新鮮な食材を使って、利用者の希望を取り入れた献立で、三食ともユニット毎に調理しておられます。利用者は山菜の皮むきや台拭き、トレー拭き、下膳などできることを職員と一緒にしておられます。利用者の状態に合わせて、ミキサー食、刻み食、お粥、とろみ食など形態を工夫され、季節の行事食やおやつづくりなど食事が楽しみなものになるように支援しておられます。日々の関わりのなかで、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努められ、新聞や絵本を読んだり、日記をつける、エレクトーンを弾く、季節の恵みを楽しむあわせ柿や干し柿づくりなどの活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援しておられる他、牧場に出かけて動物とのふれあい、初詣、地域の行事の三世代交流会や文化祭、秋祭りでの芝居見物、ブルーベリーを食べに近くのリンゴ園に行くなどの外出支援を多く取り入れておられるなど、その人のペースにあった穏やかでゆったりした1日の生活につなげて支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない  1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない  1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない  1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の特色を生かした理念を作り、掲示している。月1回の職員会議にて話し合い実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり玄関に掲示している。月1回の職員会議等で理念を確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板にて地域の情報を把握している。地域の三世代交流会、祭り、運動会に参加したり、散歩時には近隣の方と挨拶や会話し日常的にも交流している。苑の家族交流会(敬老会)に地域の方も参加されている。地域の方より、傾聴ボランティアを導入している。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を把握し、利用者は職員と一緒に隣家へ回覧板を届けて交流している。地域の行事(三世代交流会、文化祭、秋祭りの芝居見物、八幡様の祭り、保育園の運動会)に参加している。年1回の家族交流会は敬老会を兼ねて開催し、4組の家族や地域の人参加もあり、ふれ合っている。ボランティア(毎週土曜日歌謡曲等を唄う、年3回傾聴)の来訪がある。保育園児の来訪も定期的にあり、歌を歌ったりして交流している。近所の人から野菜や米や餅米の差し入れがある。近くのスーパーでの買い物時に地域の人と挨拶を交わしているなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事やボランティア活動、苑の行事を通じて触れ合いながら、認知症の方への理解、関わり方を知って頂いている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が自己評価を行う事で、現在の苑のあり方、自らの業務や姿勢を振り返る機会が出来た。職員会議にて評価内容の確認、改善点を話し、今後に取り組んでいきたい。	全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者がまとめて全員に回覧し共有している。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、運営推進会議メンバーの拡大、応急手当や初期対応の実践力を身につけるための研修の実施、地域との協力体制構築のための働きかけなど、できるところから改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、事業所の取り組みについて報告し、意見交換している。参加者の意見を取り入れながら、サービスの向上に生かしている。ただ家族の参加は少ないのが現状である。	会議は年6回開催している。家族や保育園、地域内の他事業者、自治会長、民生委員、後見人等へ開催の案内をしているが、参加者は少ない。利用者の状況や行事報告、行事計画、事故、ヒヤリハット報告をして意見交換している。スライドショーで、利用者の日常生活を紹介している。参加者から参加者を増やすために開催時間の変更や敷地内の除雪について意見がでている。委員から地元の情報を得て外出サービス等に活かしている。	・メンバーが参加できるための工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課とは、運営推進会議の他、情報交換や介護相談員の訪問を受ける等、継続して協力関係を築いている。	市の担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いたり電話で助言を得たり、情報交換しているなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないという姿勢でケアを提供している。また、苑内・法人内勉強会においても高齢者虐待の勉強をしている。	職員は法人の研修(年1回、2ヶ月間の新人研修)や内部研修で身体拘束について学び、理解しており、身体拘束をしないケアに努めている。スピーチロックのない言葉かけに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出したい利用者とは職員と一緒に外かけて支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症について理解し、必要に応じて職員間でお互い声を掛け合いながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見人制度を利用されている方がいる為、面会等で直接話をし、関係性を深め、支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、各ご家族に説明を行い、理解・同意を得られるよう、不安や疑問点等ないか確認している。面会時や電話を利用し、家族とは相談等、図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員会を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。玄関にはご意見箱を設置している。介護相談員の訪問があり、利用者の意見や要望を聞き、サービスに取り入れ、運営に反映できるよう努めている。	契約時に苦情や相談の受付体制、処理手続きについて利用者と家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。電話や面会時、家族交流会(年1回)等で家族の意見や要望を聞く機会を設けている。毎月発行している事業所だよりと一緒に利用者ひとり一人の近況と写真を送付して家族が意見を言いやすいよう工夫している。外出時に転倒し軽い傷を負った際の事後対応について「外出を控えないようにしてほしい」と家族から意見がでている。意見や要望は申し送り簿に記録し、職員全員で共有して、運営に反映している。2ヶ月に1回、市の介護相談員が来訪し、利用者の話を聞いて職員に伝えている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、年2回、職員と1対1で面談を行い職員の話の聴いている。またストレスチェックなどでも対応している。出来る限りその都度、不安や不満があれば対応している。	苑長や管理者は職員会議や年2回の個別面談で職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。日常の業務の中でも職員の意見が出やすいように業務担当(広報、安全対策、感染、環境整備、物品係、オムツ管理、行事担当)を決め職員会議で話し合い、共有して運営に反映させている。法人のストレスチェックでも対応している。日誌の記載方法や嗜好品の対応について意見がでている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週1回の本部会議にて現状を報告し、改善出来る事は改善するように努めた。ただ職員不足により負担をかけているので疲れているので精神面でのケアが必要であるが行き届いていないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議などで共有できる事は共有しているがそれ以外で時間を作るのは勤務上難しい。法人内研修には出来る限り参加している。	外部研修は、新人のフォローアップ研修に勤務の一環として1名が参加し、復命の後資料を回覧している。法人研修が毎月有り、職員が参加している。内部研修は、職員会議時に苑長と管理者が講師を務めて30分程度実施し、リスクマネジメントや虐待について、運動会前には利用者と一緒に緊急時の応急処置を具体的に行っている。法人で資格をとるための勉強会を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、全体会議があり、法人内での交流は図られている。外部研修は勤務表を見ながら行ける範囲で参加してもらっている。また法人内で国家試験対策勉強会を実施している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族の希望、要望等に耳を傾け、出来る限り反映し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限りご家族の希望に沿える様に本人と相談しながらサービスを開始している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望と現状、支援できるサービスを見極め、本人、家族に確認している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者共に一緒に家に住んでいるという認識のもと、利用者の方にも出来る事はして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、状況報告を行っている。また、ケアプランを共有し、必要に応じ受診の協力をお願いし、相互理解の基、健康管理を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じ電話したり、家族や本人の希望時には外出、外泊されている。ご家族と共に協力し、本人を支え合う様にしている。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人などの来訪がある他、電話の取り次ぎや年賀状での交流の支援を行っている。行きつけのスーパーマーケットでの買い物、来訪してくれる地元の美容院の利用や家族が行う毛染めなどを支援している。自宅周辺のドライブ、家族の協力を得て外出(墓参り等)、外食、外泊(年末年始)など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの共同生活を安心・安全に生活できるように利用者同志の関係作りには特に配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じ、本人、家族等から相談があれば支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と話をし、希望や意向に対し出来る限り対応するよう努めている。必要時には家族より情報収集している。	入居時の基本情報や生活領域アセスメントやケアマネージャーからの情報を活用している他、日々の関わりのなかでの利用者ひとり一人の話に耳を傾け、表情や行動をケース記録に記録し、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員間は申し送りでも共有し支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、カンファレンスを行い検討している。日々の業務日誌の記入、申し送りを行いながら職員で共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人一人の生活状況を記録に残し、サービス向上に繋がる様に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のニーズを分析し、利用者、家族の意見を交えた上で、職員が話し合い、ケアプランを作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になり、本人や家族、かかりつけ医や看護師等の意見を参考にして、月1回職員全員でケアカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎に評価シートによりモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じてその都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録から本人の身体状況の変化、様子等を職員間で申し送り、共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズを話し合いながら、状況に応じてサービスを行っている。現状に必要なものは希望通り実践している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源、地域食材を活用しながら豊かな暮らしが楽しめる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的な受診や往診を行っている。症状や希望時には受診し適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>本人や家族の意向によりかかりつけ医を決めている。強力医療機関からは2週間に1回の訪問診療がある。往診当日の朝にバイタル等をFAXで医師に情報提供している。必要時には歯科の訪問診療もある。他科は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は必要があれば家族に電話連絡をしている。職員は「往診申し送り」で共有している。緊急時や休日、夜間には緊急時マニュアルに基づいて協力医療機関と連絡を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常での情報や気づき等、主治医へ報告相談し、適切な受診ができるよう支援している。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院の際には病院関係者、家族と連携を図る様に努めている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や近い将来そのようなになる場合、本人、家族、主治医の意見を含め、事業所でできる事を説明し互いの話し合いで方向性を決めるように努めている。</p>	<p>契約時に、重度化や終末期に事業所のできる対応について口頭で家族に説明している。重度化した場合はその都度主治医に相談し、家族や関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決め共有し、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハットに基づき、ケアカンファレンスやミーティングにおいて話し合い事故予防に努めている。応急手当等の研修は入社時や苑内勉強会にて行っている。全職員が実践力を身につけているとは言えない状況である。	事故防止マニュアルがあり、事例が生じた場合その場にいた職員が対応策を話し合い、事故報告書・ヒヤリハット報告書に記録し、対応策と対応結果について職員で回覧し、共有して職員会議時に安全対策委員会を開催し、今後の事故防止策について協議し事故防止に努めている。内部研修で応急処置についてデモンストレーションを行っている。法人の研修では救命救急講習(応急手当)、心肺蘇生(AED)を実施し、新人研修として受講しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練、法人内勉強会を実施している。全職員が身につけているとは言えず、地域との協力体制は依頼しているが訓練などには参加されないのが構築しているとは言えない。	防災マニュアルに基づき、年2回、消防署の協力を得て、夜間想定の水害と火災時の通報、消火、避難訓練を行っている。地域の人2名を加えた緊急連絡網を作成し、訓練への参加を依頼している。女性職員に地域の消防隊員が1名いる。近隣住民に訓練の参加を働きかけているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の人格を尊重しプライバシーを損なわないような声かけ、対応をしている。	職員は、職員会議で話し合い、人格の尊重やプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。記録物等の個人情報は取り扱いに注意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、自己主張できるよう信頼関係作りを行っており、希望に沿えるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな生活パターンはあるものの、利用者第一優先の支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣類の入れ替えを行っている。家族の協力の元、ご自宅に帰られご自分で衣類や布団など選んで持ち込まれる方もいる。入浴時や起床時、可能な方には好きな服を選んで着て頂いている。地域の美容院来苑にて定期的に散髪を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットに調理員配置し、毎食共に事業所で食事を作っている。旬な地元の食材、苑で採れた新鮮な野菜や山菜を生かしたメニューを取り入れながら、楽しくおいしい食事が出来るよう支援している。山菜取り・皮むきなど、出来る事は一緒に準備して頂いている。食事時は音楽を流しながら雰囲気作りにも努めている。	調理担当の職員を確保し、各ユニットに配置して、三食とも事業所で食事づくりをしている。朝食は職員がつくっている。事業所の畑で収穫した野菜や利用者が採取した山菜((ワラビ、つくし、ふき)、近所の人や利用者家族からの差し入れの野菜や米など、旬の新鮮な食材を使って利用者の希望を取り入れた献立でユニット毎に調理している。利用者は、山菜の皮むきや台拭き、トレー拭き、下膳などできることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、ミキサー食、刻み食、お粥、とろみ食など形態を工夫している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話をしながら、同じ物を食べている。ウッドデッキでリング狩りに来た法人内他施設の利用者と弁当を食べながら交流したり、ティータイムを楽しんでいる。干し柿づくりやあわせ柿づくりをしている。家族交流会での和菓子や季節の行事食(お節、七夕、雛祭り、餅つき)、月1回のおやつレクレーション(桜餅、ホットケーキ、どら焼き、たこ焼き、おはぎ、団子、さつま芋焼き)、家族の協力を得て外食に行くなどなど、食事が楽しくなるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、おやつメニューなど個人ケースに記録し確認している。咀嚼・嚥下状態に応じて食事形態を調節し、補助食品の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアは、一人ひとりに合わせた形式で(歯磨き・うがい・スポンジ清拭)確実に実施し、清潔保持に努めている。口腔ケア用具は一週間に1回消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録や排泄確認表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間帯、状況に応じて排泄介助し、自立支援に努めている。	ケース記録で排泄状況を把握し、ひとり一人に合わせた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向け支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便パターンを把握し、必要に応じてマッサージや下剤等の調節を行っている。規則正しい食事、水分補給、運動を行いながら便秘への対策を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日曜日以外の午後より毎日入浴している。状態に応じて福祉用具使用し、安全で安心した入浴ができるよう支援している。	入浴は、日曜日以外の毎日、13時から15時までの間可能で、利用者一人ひとりの希望に合わせてゆっくり会話を楽しみながら個々に応じた入浴支援を行っている。入浴したくない人には、時間をずらしたり言葉かけの工夫をするしている。11月の1週間を温泉週間として温泉マークを入れたのれんを掛けて、名湯の入浴剤を利用した浴槽を準備し、入浴を楽しんでいるなど、工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の状態、生活習慣に合わせて休息したい時にできるよう、ソファやベッドを用意し環境を整えている。居室の証明、室温、家具の配置を調整しながら夜間安眠できるよう努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、目的、副作用等については、処方箋や薬剤師より助言を頂きながら確認している。また、薬チェック表を使用し複数の職員で確認し、服薬時は飲み込みまで確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントから本人の趣味などを導き出しサービスを提供している。また出来る事(台拭き、洗濯畳み、掃除機かけ、草取りなど)は継続して行って頂いている。	テレビやDVDの視聴、日記をつける、新聞や絵本を読む、歌を唄う、新聞紙でゴミ箱づくり、エレクトーンを弾く、縫い物、貼り絵、草抜き、芋の苗の植え付け、お手玉、輪投げ、風船バレー、カルタ、パズル、ドミノ倒し、魚釣りゲーム、おやつづくり、季節の行事(餅つき、節分の豆まき、花見、誕生会、母の日、運動会、お月見、クリスマス等)、家族交流会、ボランティアとの交流、部屋の掃除、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の箸配りや下膳、季節の恵みを楽しむあわせ柿や干し柿づくり等、利用者一人ひとりの活躍のできる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り利用者の希望に沿えるよう、体調考慮し、ご家族の協力を得て支援している。季節に沿った楽しんで頂けるよう支援している。	近隣の散歩や地域のスーパーでお菓子やさつま芋の苗の買物、季節の花見(梅、桜、紫陽花、ひまわり、紅葉)、保育園の運動会、牧場に出かけて動物とのふれあい、初詣、地域の行事(三世代交流会、文化祭、秋祭りの芝居見物、八幡様の祭り、保育園の運動会)への参加、ブルーベリーを食べに地域のリンゴ園に行っている他、家族の協力を得て衣類の買い物や外食、外泊など、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族・ご本人と相談し、お金の自己管理が難しい方は施設で管理している。外出時等、必要に応じて使用できるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時にはいつでも電話や手紙を出せるよう支援している。可能な方には年賀状をご自分で書いて頂き大切な方との関わりを持たれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の明るさや温度には気を配り対応している。居室は解りやすいように工夫している。食堂などには過ごしやすいように空間づくりには心掛けている。	明るく広々としたリビングの窓から野山の豊かな広がりや、季節により表情を変える自然を眺めることができる。リビングに面したウッドデッキに出て、ゆったりと外気に触れることができる。廊下やリビングに大きなソファを置き、利用者が思い思いにくつろぐことができるように工夫している。台所から調理の音が匂いがして、家庭的な雰囲気を感じることができる。共用部分は床暖房で、加湿器と二重ガラスで寒さ対策をして、温度や湿度、換気に配慮し、居心地良く過ごすことができるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも自由に好きな場所で過ごせるよう、ホール・廊下にソファや椅子を設置している。また、気の合う方同士が談話や活動参加出来るよう、状況に応じて机等の配置を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等の写真や思い出の物を置いて頂きながら、共に生活している空間を作っている。以前と変わらない生活に近づけられるように支援している。	使い慣れたタンスや衣装がけや衣類、布団等を持ち込み、思い出の家族写真や自分の作品、カレンダーを飾って、本人が安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーにし安全な環境づくりに努めている。また、トイレや居室入口は分かり易いよう絵や表示し、工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳佐あいおい苑

作成日: 平成 30 年 4 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	現在、運営推進会議のメンバーは6名程度。もっとメンバーを増やし施設の活性化を図っていききたい。	運営推進会議メンバーを増やし、施設の活性化を図る。	入居者の家族、地域の方、行政機関に案内を送付し参加の呼びかけ。次回、日時を伝え、事前に約束を頂く。郵送だけの案内だけでなく、事業所、行政機関などには出向いて説明、参加の呼びかけをする。	6ヶ月
2	35	応急手当や初期対応の定期的訓練は実施しているが全職員が実践力を身につけているとは言えない状況である。	全職員が初期対応がスムーズにでき、即対応ができるように努める	緊急時の対応についての内部・外部研修会に参加し、知識、技術を習得すると共に、看護職員のアドバイスにてスムーズな対応ができる様に努める	12ヶ月
3	36	災害時の地域との協力体制に於いては不十分な面がある。構築する必要がある。	消防訓練や運営推進会議へ地域の方や家族に参加してもらい、協力体制を強化する	年二回の消防訓練や日々の災害へのシュミレーションを行い即行動ができるようにする。日頃からの交流を通じて地域の方、家族に参加してもらい協力体制の構築を目指す	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。